

公立大学法人 宮城大学

事業名	宮城大学異文化理解交流促進プログラム						
実施期間	平成27年9月25日(金)～平成27年12月3日(木)						
場所	宮城大学、宮城県(南三陸町、石巻市、松島町、塩竈市、登米市)、岩手県(宮沢賢治記念館、中尊寺、毛越寺)						
参加者	外国人留学生	地域住民	学生	スタッフ	関係者	来場者	合計
	38		52		14	20	124名

<実施内容>

【日本事情探訪①震災復興編】

実施日:2015年9月25日(金)

場所:宮城県内(南三陸町、石巻市、松島町、塩竈市)

【留学生日本語スピーチコンテスト】

実施日:2015年10月18日(日)

場所:宮城大学大和キャンパス

【日本事情探訪②歴史文化編】

実施日:2015年11月14日(土)

場所:岩手県(宮沢賢治記念館、中尊寺、毛越寺)、宮城県(登米市教育資料館)

【報告会】

実施日:2015年12月3日(木)

場所:宮城大学地域復興サテライトキャンパス



No.1 【日本事情探訪①震災復興編】宮城県松島町にて



No.2 【日本事情探訪①震災復興編】日和山公園(石巻市)での説明の様子



No.3 【日本語スピーチコンテスト】表彰式を終えて



No.4 【日本事情探訪②歴史文化編】登米市教育資料館での説明の様子



No.5 【報告会】プログラム参加学生によるプレゼンテーション

【日本事情探訪①震災復興編】

2015年9月25日に実施した「日本事情探訪①震災復興編」では、日本人学生12名が事前に宮城県内の被災地に関する学んだ上で、外国人留学生9名とともに被災地（宮城県南三陸町、石巻市、松島町、塩竈市）を訪問しました。現地では、日本人学生が留学生に対して説明を行い、留学生は震災及び復興について学ぶ機会となりました。また、日本人学生は説明を通して、文化的違いからくる不理解や共通点などの「気づき」を得て、異文化理解力を深めました。

【留学生日本語スピーチコンテスト】

10月18日には、第1回宮城大学留学生日本語スピーチコンテストを開催しました。当日は、他大学や県内の日本語学校等に在学している外国人留学生のほか、高校生、一般の皆様にもご来場いただきました。審査には外部審査員のほか、本学の日本人学生も加わりました。

出場者である本学の外国人留学生11名は、今年6月頃より発表原稿の作成や発表練習を繰り返し本番に臨みました。

第1回目となる今回は、「日本の大学生」をテーマにそれぞれの経験や学びを交えながら発表しました。

スピーチ終了後は、本学在籍の日本人学生2名によるグローバル体験談発表を行ったほか、ABE Initiative（アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ）プログラムで本学に在籍している3名の研修生の紹介を行いました。

【日本事情探訪②歴史文化編】

11月14日には、日本の歴史的建造物や文学を通し、歴史文化を学ぶ「日本事情探訪②歴史文化編」を実施しました。

当日は留学生11名、日本人学生13名、教職員3名が参加しました。宮澤賢治記念館、中尊寺、毛越寺、登米市の教育資料館（旧登米高等尋常小学校）を訪問し、各地で日本人学生による説明を聞きながら、留学生が学ぶ形で進めました。移動中のバスの中でも質問が続き、学生同士の活発な交流が見られました。

【報告会】

上記3つの事業終了後、12月3日に報告会を実施しました。第1部のプレゼンテーションでは、プログラムに参加した14名の日本人学生がプレゼンテーションを行いました。

第2部の意見交換会では、本プログラムを通して学んだことを活かしながら、異文化理解をより深めることを目的として、プログラムに参加した日本人学生と外国人留学生による意見交換を行いました。

<参加者からのコメント>

千葉 奈緒さん(日本)/Nao Chiba

私は今回のプログラムで初めて異文化交流を行いました。今までこのような機会がなく最初は戸惑いの連続でしたが、観光地の紹介というきっかけがあったことで、スムーズに留学生との交流につなげることが出来たと思います。しかし、自身の文化について紹介することは容易ではなく、絵や携帯端末を用いたり、言葉を簡易にしたり、全員が留学生に理解してもらおうと必死に準備を行いました。ですがその過程で自国の文化について新たに多くのことを学ぶことが出来たとともに、日本人同士でも学びを深めることが出来ました。また、留学生のスピーチコンテストでは留学生の視点から見た日本の大学生への日常の疑問や祖国との違いを聞くことが出来、そこで初めて世界のスタンダードは日本ではないと衝撃を受けました。さらに海外に行くということは視野が広がるのだと改めて実感しました。今回のプログラムに参加して、留学生の方の視野の広さのすばらしさを知ったとともに、逆に自分はまだまだ日本に固執しているなと感じました。今後はこの経験を生かすためにも、海外に行き、さらに自分の視野を広げられるようにしたいと思います。

ソン チュン ボンさん(韓国)/Son Choon Bong

普段横の繋がり(同級生)だけではなかなか日本人先輩と交流する機会が不足だと感じたが、本イベントを通じて交流ができ、勉強や生活についての疑問も解消になった。さらに、地域の資源と歴史文化について一層興味深くなり、理解することにも有益なプログラムだと感じた。